

インフルエンザはすでに全国的に流行期に入っているようですが、みなさんの所は大丈夫でしょうか？うがいや手洗いはいつもより入念に。人ごみでは必ずマスクを着用し、できれば予防接種を受けておきたいものです。長時間に渡る国家試験、最後は体力勝負となることも覚悟して、今から体力をつけておきましょう。

今回は高齢者福祉・介護保険制度に関する基本事項を確認しましょう。

【問題 12：(高齢者に対する支援と介護保険制度)】 _____

介護保険制度に関する次の文章を完成させてください

介護保険制度は、(1)年の「高齢者保健福祉推進十ヵ年戦略(通称：ゴールドプラン)」、(2)年の「21世紀福祉ビジョン—少子・高齢化社会に向けて」の発表などを受けて準備が進められ、(3)年にスタートした。

介護保険の認定審査委員は医療、保健、福祉の学識経験者の中から(4)によって任命される。介護認定審査会は認定調査票のうち74項目からなる(5)と(6)及び主治医による(7)に基づいて審査を行う。審査はコンピュータによる(8)の結果を参考として行なわれる。

介護保険の財源構成は、公費(9)％、保険料(10)％で、公費の内訳は国(11)％、都道府県と市町村がそれぞれ(12)％である。

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【平成の変遷】

有料老人ホームに暮らす九十代の女性が、ボランティアでアジアの青年に日本語を教えている様子のあるTV番組で紹介していました。ホームの職員が用意したインターネット機器を使っの、テレビ電話による一対一の「授業」です。

茶道の師範である女性は、授業の際には和服に着替え、背筋を伸ばしてにこやかな表情で青年の質問に答え、日常の所作やお茶をいただく作法など、日本文化をレクチャーしていました。後日、日本企業の面接のために来日した青年は、ホームを訪ねて交流を深めたそうです。90歳を超えてボランティア活動で社会に貢献し、自分らしく生きている先輩がいるということは心強いことだと思いました。

「日本の社会福祉は計画の時代に入った」といわれてかなり経ちますが、そのはじまりは平成元年の“ゴールドプラン”でした。この時、あなたは何歳でしたか？その5年後には子育て支援のための“エンゼルプラン”が発表されていますが、当養成所は来期から“エンゼルプラン”後に生まれた人が入学可能となります。こうして振り返ってみると“平成”は、まさに少子・高齢化が予測どおりに進んだ時代だったといえそうです。

平成20年に始まった「後期高齢者医療制度」では65歳以上を「前期高齢者」、75歳以上を「後期高齢者」としていますが、何歳からを高齢者と呼ぶかについては老年学会でも議論があるようです。「高齢者」の意味も「後期」の意味も時代と共に変わり、人々の生き方も時代と共に変わっていくことでしょう。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【問題 12 の正解と解説】

- 1 平成元(1989)年
- 2 平成6(1994)年
- 3 平成12(2000)年
- 4 市区町村長
- 5 基本調査
- 6 特記事項

- 7 意見書
- 8 一次判定
- 9 50%
- 10 50%
- 11 25%
- 12 12.5%

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus

発信者： 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会